

第15回全国空手道指導者研修会



参加者全員で基本形1を練習

第15回全国空手道指導者研修会（主催＝日本武道館、全日本空手道連盟、全国高等学校体育連盟空手道専門部、全国中学校空手道連盟、後援＝スポーツ庁）が8月20～22日の日程で、東京・辰巳の日本空手道会館で講師、助講師12名、講義協力者5名と、中学校保健体育科教員を中心とする56名の参加者を得て実施された。

本研修会は、中学校武道必修化の充実に向け、日本全国で空手道を指導する中学校、高等学校の指導者を対象に、教科体育「空手道」の理解を深め、空手道の授業指導及び専門的な知識・技術の充実を図り、もって中学校、高等学校空手道指導者の資質向上に資する目的で行われた。

■8月20日（1日目）

開講式では、主催者を代表し、笹川 堯ささがわ たかし 全日本空手道連盟会長、端春彦はたはるひこ 日本武道館振興課長と講師を代表して小山正辰こやまさし 講師が挨拶を行った。

開講式後、日下 修次くさか しゅうじ 講師が「学校武道推進事業の取組について」をテーマに講義を行った。令和6年度の全日本空手道連盟の目標である「空手道授業実施中学校1,000校の達成」、「小学校武道必修化への準備」等について説明した後に、令和5年度に実施された、特別支援学校における空手道授業や学校訪問プロジェクト、第1回全国学校空手道コンクール

等について事業の紹介を行った。

続けて、事前に参加者が自らの関心に応じて実技・講義を自由に選択できるテーマ別実習が行われた。

小山講師が講義を行った「基本の指導法」では空手道を経験したことがない参加者をメインに空手道の基本技の動作や体の動かし方について指導が行われた。参加者は座礼・立礼等の礼法の確認をし、上段受け、下段払い、突き、前屈立ちの動作を学び、基本形1を反復練習。その後応用で基本形2・3の動きを行った。

井下佳織いのした かおり 講師による「アクティブラーニングの実践」では、「課題解決型学習」・「学び合い」・「主体的な学び」の視点を活かした魅力ある空手道授業づくりの実践を目標とし、指導実習をメインとした講義を行った。井下講師は、生徒の達成感や自己効力感に焦点を当て、空手道の楽しさを実感し、人との交流の良さを実感してもらうための授業づくりのポイントについて参加者にヒントを与えた。

佐藤賢一さとうけんいち 講師による「特別支援学校における空手道授業」では、初めに学習指導要領における武道や空手道の有効性について解説をした後、様々な動きを行いながら空手道の攻防の動作を学ぶことのできる「空手サーキット」や、音楽に合わせて突き・受け等の動きを行う「リズム空手」、色のついた手袋を使って効果的に突きの動作ができる視覚的支援を用

いた指導法の紹介を行った。

佐藤講師は自身の授業において「学習としての素材をどのように扱うかは指導の対象によって様々である。空手道に生徒を合わせるのではなく、生徒に空手道を合わせるような、自然に学べる工夫をすること」を心がけていると参加者に伝えた。

テーマ別実習の後に全体で、砂川雄飛すなかわゆうひ講師の進行のもと学校訪問プロジェクトの模擬体験授業を行った。参加者は講義協力者が実際に披露した演武や組手競技を見学し、空手道への理解を深めた。

■8月21日（2日目）

2日目は初めに日野一男ひのかずお講師が「先達が築いた空手道の美動探求による指導力向上と安全確保」をテーマに講義を行った。日野講師は、空手道憲章の解説や、指導者としての立ち振る舞いや備えるべき資質、安全指導について説いた。また、「指導者の指導対象者に対する位置はリーダーである。人育てという高尚な位置であることを強く意識しなければならない」、「指導者やリーダーとしての『威厳』は自身がひけらかすものではなく、相手が尊敬し、信頼した結果与えられるものである」と参加者に呼びかけた。続けて過去の判例を参考に、指導者の責任や過失、注意義務について解説した。

次に、松原光まつばらひかる講師は指導実践法・運営として「団体形演武」の実習を行った。参加者は初日に学んだ基本形1の動作を復習した後に、グループに分かれて競技会を行った。各グループで礼法や、発声、力強さ等の形の評価基準や、その配点比重を話し合っ
て検討し、審判等の運営も各グループで行った。松原講師は「各学校で置かれている環境は様々であり、変えられるもの、変えられないものがある。状況に応じてベターなやり方を見つけて、わずかな時間でも工夫して空手道の授業を実践してほしい」と参加者に述べた。

昼食を挟み、野中史子のなかふみこ講師が「空手道授業の現状・約束組手」の講義を行った。野中講師は初めに空手道授業の実施率や、武道授業の実施によって生徒たちに見られた変化を紹介し、評価方法等について解説した。その後、ペアに分かれて信頼関係を築くためのアイスブレイクをいくつか行い、安全対策のた

めタオルを用いながら約束組手を実践した。野中講師は、安全指導について「授業中だけではなく授業後における指導、危機管理能力の育成といった面も皆さんには理解していただきたい」と述べた。

2日目の締めくくりでは太田熊野おおたゆうや講師による「特別支援学校における空手道授業」の講義を行った。身体障がいの種類について説明を行い、空手道の有効性や、評価の基準について解説をした。続けて、視覚障がい者への空手道授業の指導方法として、ラップの芯を使った指導法を紹介した。



また、視覚障がい者の視点に立つために、実際に目隠しをした状態で基本形1を全員で行ったところ、「不安で、100%の力を出すことができなかった。声掛けや周りのサポートの重要性が分かった。このことは通常学級の指導でも活かすことができるだろう」、「空手道の経験があっても、位置のずれや体幹のブレが生じてしまった。自分が普段いかに視覚情報に頼っているかが分かった」といった意見が挙げられた。

■8月22日（3日目）

最終日、竹見國雄たけみくにお講師は「創作組手」の実習・競技会を行った。竹見講師は「安全性や、相手に対する敬意という意味での武道性、体育の授業という競技性はもちろん重要であるが、形に囚われない自由な発想や礼法、構成で創作組手をしてほしい」と参加者に呼びかけた。競技会では各グループ、工夫を凝らした、自分達らしい組手を披露し、拍手と称賛の声が上がった。

閉講式では端振興課長が代表者に修了証を授与、小山講師が講師講評を行った後、高橋昇たかはしのぼる全日本空手道連盟事務局長が主催者挨拶を行い、全日程を終了した。